

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104100
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミール
事業所名	グループホーム ファミール立花
所在地	愛媛県松山市立花1丁目1番23号
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 6 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ファミール立花は2ユニット共に厨房の料理上手な専属職員が居り、おやつもほとんど手作りです。裏庭でお野菜を作ったり、お花を植えてみたり、ベンチを設置し、天気の良い日は外気に触れる事もできます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を迎えた事業所は松山市中心部に近く、古くからある商店街や石手川等、昔から変わらない景色の残る地域である。管理者は、教育、環境、事故対策等各種委員会を設置し、職員教育や処遇改善、環境整備などに取り組み、利用者が住み慣れた地域で当たり前の生活が送れるよう検討しながら、サービスを提供する工夫をしている。職員も「利用者の気持ちに沿える介護とは何か」ということを考え、より良いサービスが提供できるよう努めている。また、母体法人の協力医や訪問看護との連携も取れており、日頃の健康管理を行うほか、緊急時にもスムーズに対応することができ、利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名) A

記入者(管理者)
氏名 黒木万里子

評価完了日 平成 26 年 6 月 3 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時に考えた 1. 安心して生活できる環境の提供 2. 個人の尊重と自立支援 3. 地域交流の支援 という理念があり、分かりやすく、開設時からの理念で愛着もあり、このま、この理念を日誌やロビーに明記して普段から意識しやすいようにして、カンファレンスやケアプラン作成時の基本にしている。</p> <p>(外部評価) 3つの理念を開設時に作成している。理念は事業所が目指すサービスのあり方を示しており、開設10年を経た現在も大切に受け継がれている。管理者は職員の入職時に理念の説明を行い、事業所内に掲示するなど、職員間で共有し意識づけをしている。また、教育、環境、事故対策等各種委員会を設置し、職員はケアカンファレンスや日々の業務の中でそれぞれの役割を持ち、理念を実践できるように努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所への外出、挨拶・会話をしたり、また、餅つきを行った際はご近所に貰って頂いたり、H25年から地域の大掃除などにも参加させて頂き、事業所自体として交流ができるよう、近くの事業所さんの運営推進会議や、地域交流イベントに参加・公民館の夏祭り、地区の防災訓練へ参加したり交流を増やすよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 地域住民の協力が得られにくい地域であるが、散歩時に挨拶を交わしたり、市民大清掃などに参加したりするなど、少数ではあるが地域住民の協力を得られるようになってきており、今後も地域の一員としてできることを行えるよう検討している。地域にある企業や他の事業所なども相互の協力関係を築いている。地域包括支援センターを通じて小学校に出向き、認知症の理解を促す読み聞かせ活動をしている。傾聴ボランティアや学生の実習を受け入れたり、保育園児に訪問してもらいハンドベルの演奏するなど交流をしている。また、夏には「花火の夕べ」を事業所で開催し、ボランティアや地域住民の参加協力を得ている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人を含めて、ホームに相談に来る人が時々あり相談に乗っており、地域包括からの依頼で、小学校などへの読み聞かせ等などにも参加させて頂き、認知症について子供たちの質問に答える等行い、今後も続けていけるようにしたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 他事業所、ケアマネージャーの方にも声かけし、運営推進会議に出席してもらい意見交流を図るよう心掛けている。その意見を参考に自分たちのグループホームを客観的にみる機会になっていて一定のサービスレベル維持になっている。今後もこれをサービス向上に活かしたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族等、地元企業の代表、民生委員、ボランティア、他の事業所の職員、市担当者、地域包括支援センター職員等の幅広い参加協力を得て2か月毎に開催している。会議では事業所から取組み等を報告し、参加者からアドバイスや客観的な意見をもらったり、地域の情報を得たりするなど、事業所への理解と支援に繋がっている。また、会議と合わせた防災訓練を開催したり、医師を招いての口腔ケア勉強会を行うなど、参加者の印象に残るテーマを工夫して開催している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 必要に応じ連絡や相談を行っている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加してもらうほか、日頃から運営上の相談や手続きを密に行うなど、協力関係が築かれている。管理者は市の要介護認定審査会にも協力をしている。また、地域包括支援センターは身近な存在であり、研修会等に参加したり、地域との交流に繋がるなど、よき相談相手として相互の協力関係もできている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) スタッフ全員が、基本的に何が拘束なのかを理解する為、研修にも参加するようにしている。その上で身体拘束をしないケアを行う為、カンファレンス等で話し合いもしており取り組んでいるが、安全上やむを得ない場合は、家族の承諾を得て必要に応じて対応している。また、マニュアル作成にも取り組んでいる</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束等の外部研修へ参加し、ミーティング等で職員全員での話し合いや伝達をして、厳守すべき内容を正しく理解できるように改善をしている。利用者の安全面を考え4点柵を使用する場合は、利用者や家族に説明し理解を得ている。玄関にはセンサーが設置され、日中開放されており、利用者は自由に入出入りすることができ、職員は見守りをして対応をしている。また、管理者はマニュアルの作成を検討している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について勉強会にも出席し、カンファレンスの時に、毎回言葉遣いについて注意や話し合いをし、問題があった場合は早急にカンファレンスを開く等して虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) Bユニットに成年後見制度を利用している入居者が1人いるが、Aユニットにはこの制度を利用している方はいない。今後必要と思われる状況になれば、関係者と話し合いこれらの制度や支援事業の活用を考えていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示できるよう職員との関係作りを意識している。また、家族が面会に来られた時にも同様に気が付いたことを言いやすいような雰囲気作りや、声掛けを行い、その中で出た意見などで、出来ることは運営に反映するように努力している。	
			(外部評価) 利用者から、日常の生活の中で意見や要望を聞いている。面会時に必ず声をかけ家族等から意見や要望を聞くほか、毎月手紙を送付し利用者の様子を報告している。出された要望や相談には、迅速な対応を心がけており、内容は職員全員で共有し、業務改善を行ったり介護計画に反映したりしている。また、日頃から利用者や家族が気軽に意見を言いやすい良好な関係づくりに取り組んでおり、職員間に定着している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任（副主任）、管理者、運営者が集まり会議を開くようにし、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、反映できるようにしている。また普段の何気ない会話の中にも問題意識を持つようにしている。 (外部評価) 職員は管理者に意見や提案を言いやすく、悩みなどの相談も気軽にすることができる関係がつけられている。ミーティング時や日常業務の中で職員は管理者に意見を伝え話し合いを行い、出された意見は業務改善に繋がっている。管理者は職員と個人面談を行ったり、職員教育の機会を増やしたりしながら、業務の評価が給与へ反映される就業環境をつくり、職員のやりがいやサービスの向上に繋がっている。また、管理者は医者である代表者に個別面談の状況を伝えたり、往診時に職員は代表者と話をすることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) H25年度より、休憩も取りやすいよう部屋の工夫、また個人々に目標・自己評価等を行って頂き、管理者・主任と面談の上、H26年度より、勤務評価により少額ながら時給upを実施。今後も可能な範囲で職場環境や条件整備に努め、やりがいのある職場を目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社の運営上必要と認めたものは外部の研修についても勤務時間外で研修を受けてもらい、研修費用も会社が全額負担するようにしている。その他の研修についても、状況に応じ研修費用を（一部～全部）負担したり、勤務外で研修を受けられる機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) H26年度より、他施設研修を行い、勉強会や交流は包括支援センターの連絡会や地域密着型サービス協会の研修等機会があり、時間が許せば参加するようにしている。また、他事業所の運営推進会議や消防訓練への参加を行い交流の機会を確保している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前にも、本人や関係者からこれまでの経緯や現状を聞いたり、利用についての不安等があれば聞くようにし、利用後も随時本人等の話に耳を傾け、安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事の希望を聴いたり、一緒にできる事をして頂いたり、裏の畑や、玄関の水やりをしながら、常に意識し、接するようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた時は必ず現状態をお話しするようにし、常に意識を持ち接するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や、以前交流があった人たちにも働きかけ、馴染みの人や場所との関係が少しでも維持できるように働きかけている。 (外部評価) 職員は利用者の今までの人間関係や習慣等を把握し、老人クラブの活動や詩吟などできる限り継続できるよう支援している。家族や友人等の面会が多く、事業所を訪問しやすい環境づくりをしている。事業所での利用者同士や地域の交流の中で新たな馴染みの関係づくりを支援しながら、利用者の楽しみに繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者が他の入居者をいたわる場面も多くみられるが、反面、中には他者と上手く関係を作れない利用者もいる。相性は考えて対応しているので、誰かが孤立してしまうようにならないよう心配りしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同様に心がけ、以前入居していた亡くなられた利用者家族様も外出先で会ったら声かけて下さったり、時々ホームに立ち寄ってくれ、現状報告等されたい自分の今後について相談を受ける事もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、家族の面会時に利用者や家族の思いや希望が出ることも多く、そういった思いや希望に対しどうすればその一部でも実現できないかと、まずは受け入れるようにし、始めからそれは無理というような考え方はしないようにしている。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者から思いを聞いている。思いの把握が困難な利用者には、家族等から情報を得たり、職員間で検討しながら利用者本位のサービスが提供できるよう努めており、利用者が自己決定できる場面が見られるようになっている。利用者の思い等を職員間で話し合い、利用者が生き生きとした生活が送れるよう支援している。また、医療機関と連携し、職員間で利用者の思いを共有し、利用者自身の気持ちに沿えるケアにも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人や家族、関係者からの情報に加え、入居後も本人や家族等の会話から情報を得るようにして、追加で得られた情報は、フェイスシートに追加記入するようにし、これまでの暮らし、その人らしい生活のあり方について共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のカンファレンス時に普段の様子や面会時の家族等からの情報を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員を中心に介護計画の原案を作成し、カンファレンスで利用者や家族等の意向を踏まえて職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングを行い、必要があれば見直しをしている。目標は職員にも分かりやすく、実践しやすいものとなっている。また、管理者は現在使用している記録様式の改善を検討している。	職員全員が介護計画の内容を理解して支援し、介護計画に沿った分かりやすい記録を行うことにより、根拠のあるモニタリングへ繋がる取組みを期待したい。また、記録様式を改善する機会に、職員間で検討して他の記録等の見直しも行い、分かりやすい記録様式となることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟に対応するように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 職員付き添いで近所の美容室やスーパーを利用する機会が以前より増えてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医を含め、必要に応じ家族や本人の希望を聞き必 要な医療機関の受診等の支援を行っている。 (外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を家族の協力を得て 継続して受診することができる。母体法人の協力医をかかり つけ医としている利用者も多い。受診に家族が同行できない 場合には、職員が同行をし受診内容を報告している。母体法 人の協力医や訪問看護との連携も取れているほか、管理者は 看護師資格を持っており、日頃の健康管理を行うほか、緊急 時にもスムーズに対応することができ、利用者は安心して事 業所を利用することができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 同様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に 備えて病院関係者との関係づくりを行っ ている。	(自己評価) 同様にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者 と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時の説明でも看取りについての話をしているが、必要と 考えられる場合には、その都度家族や関係者(主治医・看 護・介護者)と話し合い今後の方針など記録しスタッフの意 思統一を図り、教育を行っている。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、事業所としてできる内容 を利用者や家族等に説明し、意向を確認している。事業所 では数件の看取り支援を経験している。利用者の状態に応 じて、医療機関を交えて家族との話し合いを繰り返し行い、意 向に沿えるよう支援している。また、看護師資格を持つ管理 者は、職員に対して終末期ケアなど細やかな指導を行って おり、職員も状況に応じた具体的な支援や連携が取れている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についての簡単な対応マニュアルを作っていて見やすい所に貼っていたり、年2回の消防避難訓練で消防署職員に救命講習を受けるようにしている。また救命方法のビデオを置いてあり職員が借りて帰れるようにもしているが、実際にそういう場面に職員が遭遇した場合は、大半の職員が経験を積んでいないので不安はあるが直ぐに職員と連絡をとれるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 最近夜間に火災が発生した設定で、火災避難訓練をしている。地域との協力体制については、取り決めをしているわけではないが、近所に住んでいる職員が2名いるのと、運営推進会の際に、入居者の知人の家族が近所に住んでいたりと、町内会長と民生委員の方々も家が近く、運営推進委員等において近くの施設・ご家族・地域包括に互いに協力依頼している。 (外部評価) 年2回夜間の火災を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得て、専門的なアドバイスをもらっている。運営推進会議では、参加者と地域の災害対策の意見交換を行うなど、家族や近隣事業所、地域包括支援センター、地元企業等との協力体制を築いている。日頃から備蓄を考えた飲料水等の確保をしている。また、居室内の家具の転倒防止対策をしており、ハード面での改修や自主的な安全対策も行い、災害時に備えている。	事業所は河川にも近く、水害など様々な災害を想定したマニュアルの作成や、職員全員が利用者を安全に避難できる手順の確認などを行うことを期待したい。また、近隣住民等の地域協力者を増やし、一緒に避難訓練を行うなど実践的な取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇・言葉遣い（特に指示・命令口調・友達言葉等）は、その都度注意している。 (外部評価) 職員は利用者との慣れからくる言葉づかいや口調に気をつけた声かけ等をしている。特に入浴時や排泄時の支援には気を配り、利用者の羞恥心や誇りを損なわないよう支援しており、気になることは職員間で注意し合っている。利用者の安全面を優先し、転倒の危険性のある利用者の居室は、利用者や家族等に説明し同意を得て、ドアを開けた迅速な対応や見守りをする場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上できない事もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら、できる範囲で個人のペースや希望に添うように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同様にしている。買い物・散歩等外出時はもちろん特に、遠足や行事の時。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けに参加できる利用者や参加できる内容は限られてしまうが、働きかけは行っている。利用者さんと一緒に調理をし、得意料理を作って頂く機会も以前と比べ増えつつある。 (外部評価) 各ユニットに調理専門の職員が配置されており、利用者の希望を取り入れながら品数多く見た目にも楽しい調理をするよう努めている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、一家団欒のような会話をしながら和やかに同じ食事を食べている。利用者は食器の準備や片付け等を手伝っている。利用者個々の病気に配慮した食事や形態にする工夫している。また、利用者に食事の意見を聞いたり、外食を取り入れたりするなど、利用者が食に対して楽しみが持てるような工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の栄養状態や、体重を考えて必要な人には食事量の制限や栄養補助食品の利用などを行い。摂取量についても、必要に応じ個別により細かいチェックをするようにして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が拒否する場合もあるが、利用者全員に口腔ケアを働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェックシート（排泄時間量・水分食事量等全部が把握できる）チェックを用い排泄パターンを把握する努力をし、すぐにリパツやおむつにするのではなく、しあわせパンツと尿取りパットを組み合わせる等、本人が気持ち良くトイレに行けるよう工夫している。	
			(外部評価) 排泄時間や量、水分や食事量等チェックシートに詳細に記録されており、利用者個々の排泄パターンをつかんでいる。訴え、表情、様子を見て、さりげなくトイレ誘導ができ、気持ち良い排泄へとつなげている。排泄関連の用品の勉強会を専門業者を招いて開催したり、外部研修への参加を通じ学習をしている。適切な用品の選択を検討したことで現在の状態維持や負担軽減につながる例があり、自立にむけた支援に努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。チェックシート把握し、飲み物の工夫、水分量の確保、必要に応じ便秘薬も使用し便秘が長期化しないように気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上時間帯については本人の希望どうりにはできていないが、時間内であれば、曜日や同性介助など希望を聞いて行っている。	
			(外部評価) 各ユニットに浴槽があり、利用者は週2～3回を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて入浴できるよう支援しており、同性介助などの対応もしている。利用者の高齢化に伴い介護度も高くなってきたため、2人体制での介助や福祉用具などの使用を工夫して安心安全に入浴できるよう支援している。また、職員間で入浴設備の見直しなどを話し合い、改修を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。寝具等天気の良い日には布団干し、または乾燥機を使用し順番に行い、清潔に保ち、整頓している。またフロアにはソファを置き寛げるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量等は薬局から出される説明文を個人のカルテに入れていて、必要に応じ確認できるようにしている。また、症状の変化にも気をつけ主治医との連携を取っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の過ごし方は、職員と共に、みんなが一緒に体操やちょっとしたゲーム、散歩、DVD鑑賞をしたり、個々でぬり絵、パズル、読書、等をして過ごして頂く。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ちょっとした近所への外出は去年よりも増えているが、その時になって急に言われるとできない事も多く、日を変えてもらうこともある。普段いけないような場所への外出は、まずは家族に協力をお願いし行うようにしている。 (外部評価) 日頃から利用者の希望を聞きながら、散歩や買い物等に気軽に出かけられるよう支援している。利用者に外出することが特別でないことを意識づけて支援している。日常会話の中で聞かれたホテルを見に行ったり、行きたいところに家族の協力を得て遠出したりするなど、気軽に外出できる機会をつくり利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所有している利用者は少ないが、希望がある場合は家族と相談の上、小額を本人に管理してもらっている。また外出時出来るだけ本人がお金を支払うように心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、メダカやベタを飼育し、エサやりをして頂いたり、裏庭の野菜作り、玄関の植物に水やりをして頂く。台所・食堂（リビング）がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。</p> <p>(外部評価) 事業所は開設10年を迎えたが、清掃は行き届き清潔で丁寧な管理が行われている。特に感染症等の対策には気を配り、食事の前後にはテーブルなどの消毒を行うなど、気持ちよく生活できるよう配慮している。リビングには利用者で作成をした季節の飾りつけを行い、中心にキッチンや廊下が見渡すことができ、利用者は食事づくりの様子や香りを楽しむことができる。また、中庭があり野菜づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。裏庭にもベンチを置き外気に触れられるようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に置けるものであれば、馴染みの物を持ち込んでかまわないようにしているので、自宅にあった仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドと整理ダンスが備え付けられている。居室には思い入れのあるものを持ち込めるよう利用者や家族に声をかけ、仏壇や生活用品等を持ち込み、利用者に合わせた空間づくりをしている。また、居室内の転倒防止対策をしたり、適切な温度管理をするなど、家族に協力してもらいながら利用者が居心地良く生活を送れるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの広さや廊下の幅は車イスも利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差も少なくし、トイレ・浴室・廊下に手すりを取り付けている。また、居室入り口等に名札を付けたり、カレンダーや時計を目に付きやすいところに設置し、確認しやすいようにしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104100
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミール
事業所名	グループホーム ファミール立花
所在地	愛媛県松山市立花1丁目1番23号
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 6 月 30 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ファミール立花は2ユニット共に厨房の料理上手な専属職員が居り、おやつもほとんど手作りです。裏庭でお野菜を作ったり、お花を植えてみたり、ベンチを設置し、天気の良い日は外気に触れる事もできます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年目を迎えた事業所は松山市中心部に近く、古くからある商店街や石手川等、昔から変わらない景色の残る地域である。管理者は、教育、環境、事故対策等各種委員会を設置し、職員教育や処遇改善、環境整備などに取り組み、利用者が住み慣れた地域で当たり前の生活が送れるよう検討しながら、サービスを提供する工夫をしている。職員も「利用者の気持ちに沿える介護とは何か」ということを考え、より良いサービスが提供できるよう努めている。また、母体法人の協力医や訪問看護との連携も取れており、日頃の健康管理を行うほか、緊急時にもスムーズに対応することができ、利用者や家族は安心して事業所を利用することができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名)

B

記入者(管理者)

氏名

黒木万里子

評価完了日

平成 26 年 6 月 3 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時に考えた 1. 安心して生活できる環境の提供 2. 個人の尊重と自立支援 3. 地域交流の支援 という理念があり、分かりやすく、開設時からの理念で愛着もあり、このま、この理念を日誌やロビーに明記して普段から意識しやすいようにして、カンファレンスやケアプラン作成時の基本にしている。</p> <p>(外部評価) 3つの理念を開設時に作成している。理念は事業所が目指すサービスのあり方を示しており、開設10年を経た現在も大切に受け継がれている。管理者は職員の入職時に理念の説明を行い、事業所内に掲示するなど、職員間で共有し意識づけをしている。また、教育、環境、事故対策等各種委員会を設置し、職員はケアカンファレンスや日々の業務の中でそれぞれの役割を持ち、理念を実践できるように努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近所への外出、挨拶・会話をしたり、また、餅つきを行った際はご近所に貰って頂いたり、H25年から地域の大掃除などにも参加させて頂き、事業所自体として交流ができるよう、近くの事業所さんの運営推進会議や、地域交流イベントに参加・公民館の夏祭り、地区の防災訓練へ参加したり交流を増やすよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 地域住民の協力が得られにくい地域であるが、散歩時に挨拶を交わしたり、市民大清掃などに参加したりするなど、少数ではあるが地域住民の協力を得られるようになってきており、今後も地域の一員としてできることを行えるよう検討している。地域にある企業や他の事業所なども相互の協力関係を築いている。地域包括支援センターを通じて小学校に出向き、認知症の理解を促す読み聞かせ活動をしている。傾聴ボランティアや学生の実習を受け入れたり、保育園児に訪問してもらいハンドベルの演奏するなど交流をしている。また、夏には「花火の夕べ」を事業所で開催し、ボランティアや地域住民の参加協力を得ている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人を含めて、ホームに相談に来る人が時々あり相談に乗っており、地域包括からの依頼で、小学校などへの読み聞かせ等などにも参加させて頂き、認知症について子供たちの質問に答える等行い、今後も続けていけるようにしたい。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 他事業所、ケアマネージャーの方にも声かけし、運営推進会 議に出席してもらい意見交流を図るよう心掛けている。その 意見を参考に自分たちのグループホームを客観的にみる機会に なっていて一定のサービスレベル維持になっている。今後もこれ をサービス向上に活かしたいと考えている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族等、地元企業の代表、民生委 員、ボランティア、他の事業所の職員、市担当者、地域包括 支援センター職員等の幅広い参加協力を得て2か月毎に開催 している。会議では事業所から取組み等を報告し、参加者か らアドバイスや客観的な意見をもらったり、地域の情報を得 たりするなど、事業所への理解と支援に繋がっている。ま た、会議と合わせた防災訓練を開催したり、医師を招いての 口腔ケア勉強会を行うなど、参加者の印象に残るテーマを工 夫して開催している。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	<p>(自己評価) 必要に応じ連絡や相談を行っている。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加してもらうほか、日頃から運 営上の相談や手続きを密に行うなど、協力関係が築かれてい る。管理者は市の要介護認定審査会にも協力をしている。ま た、地域包括支援センターは身近な存在であり、研修会等に 参加したり、地域との交流に繋がるなど、よき相談相手とし て相互の協力関係もできている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) スタッフ全員が、基本的に何が拘束なのかを理解する為、研 修にも参加するようにしている。その上で身体拘束をしない ケアを行う為、カンファレンス等で話し合いもしており取り 組んでいるが、安全上やむを得ない場合は、家族の承諾を得 て必要に応じて対応している。また、マニュアル作成にも取り組 んでいる</p> <p>(外部評価) 職員は身体拘束等の外部研修へ参加し、ミーティング等で職 員全員での話し合いや伝達をして、厳守すべき内容を正しく 理解できるように改善をしている。利用者の安全面を考え4 点柵を使用する場合は、利用者や家族に説明し理解を得てい る。玄関にはセンサーが設置され、日中開放されており、利 用者は自由に入出入りすることができ、職員は見守りをして対 応をしている。また、管理者はマニュアルの作成を検討して いる。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について勉強会にも出席し、カンファレンスの時に、毎回言葉遣いについて注意や話し合いをし、問題があった場合は早急にカンファレンスを開く等して虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) Bユニットに成年後見制度を利用している入居者が1人いるが、Aユニットにはこの制度を利用している方はいない。今後必要と思われる状況になれば、関係者と話し合いこれらの制度や支援事業の活用を考えていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示できるよう職員との関係作りを意識している。また、家族が面会に来られた時にも同様に気が付いたことを言いやすいような雰囲気作りや、声掛けを行い、その中で出た意見などで、出来ることは運営に反映するように努力している。	
			(外部評価) 利用者から、日常の生活の中で意見や要望を聞いている。面会時に必ず声をかけ家族等から意見や要望を聞くほか、毎月手紙を送付し利用者の様子を報告している。出された要望や相談には、迅速な対応を心がけており、内容は職員全員で共有し、業務改善を行ったり介護計画に反映したりしている。また、日頃から利用者や家族が気軽に意見を言いやすい良好な関係づくりに取り組んでおり、職員間に定着している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任（副主任）、管理者、運営者が集まり会議を開くようにし、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、反映できるようにしている。また普段の何気ない会話の中にも問題意識を持つようにしている。 (外部評価) 職員は管理者に意見や提案を言いやすく、悩みなどの相談も気軽に行うことができる関係がつけられている。ミーティング時や日常業務の中で職員は管理者に意見を伝え話し合いを行い、出された意見は業務改善に繋がっている。管理者は職員と個人面談を行ったり、職員教育の機会を増やしたりしながら、業務の評価が給与へ反映される就業環境をつくり、職員のやりがいやサービスの向上に繋がっている。また、管理者は医者である代表者に個別面談の状況を伝えたり、往診時に職員は代表者と話をすることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) H25年度より、休憩も取りやすいよう部屋の工夫、また個人々に目標・自己評価等を行って頂き、管理者・主任と面談の上、H26年度より、勤務評価により少額ながら時給upを実施。今後も可能な範囲で職場環境や条件整備に努め、やりがいのある職場を目指している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社の運営上必要と認めたものは外部の研修についても勤務時間外で研修を受けてもらい、研修費用も会社が全額負担するようにしている。その他の研修についても、状況に応じ研修費用を（一部～全部）負担したり、勤務外で研修を受けられる機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) H26年度より、他施設研修を行い、勉強会や交流は包括支援センターの連絡会や地域密着型サービス協会の研修等機会があり、時間が許せば参加するようにしている。また、他事業所の運営推進会議や消防訓練への参加を行い交流の機会を確保している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前にも、本人や関係者からこれまでの経緯や現状を聞いたり、利用についての不安等があれば聞くようにし、利用後も随時本人等の話に耳を傾け、安心して生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 食事の希望を聴いたり、一緒にできる事をして頂いたり、裏 の畑や、玄関の水やりをしながら、常に意識し、接するよう にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来られた時は必ず現状態をお話しするようにし、常に 意識を持ち接するようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族や、以前交流があった人たちにも働きかけ、馴染みの人 や場所との関係が少しでも維持できるように働きかけてい る。	
			(外部評価) 職員は利用者の今までの人間関係や習慣等を把握し、老人ク ラブの活動や詩吟などできる限り継続できるよう支援してい る。家族や友人等の面会が多く、事業所を訪問しやすい環境 づくりをしている。事業所での利用者同士や地域の交流の中 で新たな馴染みの関係づくりを支援しながら、利用者の楽し みに繋げている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者が他の入居者をいたわる場面も多くみられるが、反面、中には他者と上手く関係を作れない利用者もいる。相性は考えて対応しているので、誰かが孤立してしまうようにならないよう心配りしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同様に心がけ、以前入居していた亡くなられた利用者家族様も外出先で会ったら声かけて下さったり、時々ホームに立ち寄ってくれ、現状報告等されたい自分の今後について相談を受ける事もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、家族の面会時に利用者や家族の思いや希望が出ることも多く、そういった思いや希望に対しどうすればその一部でも実現できないかと、まずは受け入れるようにし、始めからそれは無理というような考え方はしないようにしている。	
			(外部評価) 日常生活の中で利用者から思いを聞いている。思いの把握が困難な利用者には、家族等から情報を得たり、職員間で検討しながら利用者本位のサービスが提供できるよう努めており、利用者が自己決定できる場面が見られるようになっている。利用者の思い等を職員間で話し合い、利用者が生き生きとした生活が送れるよう支援している。また、医療機関と連携し、職員間で利用者の思いを共有し、利用者自身の気持ちに沿えるケアにも取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人や家族、関係者からの情報に加え、入居後も本人や家族等の会話から情報を得るようにして、追加で得られた情報は、フェイスシートに追加記入するようにし、これまでの暮らし、その人らしい生活のあり方について共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のカンファレンス時に普段の様子や面会時の家族等からの情報を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員を中心に介護計画の原案を作成し、カンファレンスで利用者や家族等の意向を踏まえて職員間で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。また、定期的にモニタリングを行い、必要があれば見直しをしている。目標は職員にも分かりやすく、実践しやすいものとなっている。また、管理者は現在使用している記録様式の改善を検討している。	職員全員が介護計画の内容を理解して支援し、介護計画に沿った分かりやすい記録を行うことにより、根拠のあるモニタリングへ繋がる取組みを期待したい。また、記録様式を改善する機会に、職員間で検討して他の記録等の見直しも行い、分かりやすい記録様式となることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟に対応するように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 職員付き添いで近所の美容室やスーパーを利用する機会が以前より増えてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) かかりつけ医を含め、必要に応じ家族や本人の希望を聞き必 要な医療機関の受診等の支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医や専門医を家族の協力を得て 継続して受診することができる。母体法人の協力医をかかり つけ医としている利用者も多い。受診に家族が同行できない 場合には、職員が同行をし受診内容を報告している。母体法 人の協力医や訪問看護との連携も取れているほか、管理者は 看護師資格を持っており、日頃の健康管理を行うほか、緊急 時にもスムーズに対応することができ、利用者は安心して事 業所を利用することができる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 同様にしている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相 談に努めている。または、そうした場合に 備えて病院関係者との関係づくりを行っ ている。	<p>(自己評価) 同様にしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説 明しながら方針を共有し、地域の関係者 と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居時の説明でも看取りについての話をしているが、必要と 考えられる場合には、その都度家族や関係者(主治医・看 護・介護者)と話し合い今後の方針など記録しスタッフの意 思統一を図り、教育を行っている。</p> <p>(外部評価) 「看取りに関する指針」を作成し、事業所としてできる内容 を利用者や家族等に説明し、意向を確認している。事業所 では数件の看取り支援を経験している。利用者の状態に応 じて、医療機関を交えて家族との話し合いを繰り返し行い、意 向に沿えるよう支援している。また、看護師資格を持つ管理 者は、職員に対して終末期ケアなど細やかな指導を行って おり、職員も状況に応じた具体的な支援や連携が取れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についての簡単な対応マニュアルを作っていて見やすい所に貼っていたり、年2回の消防避難訓練で消防署職員に救命講習を受けるようにしている。また救命方法のビデオを置いてあり職員が借りて帰れるようにもしているが、実際にそういう場面に職員が遭遇した場合は、大半の職員が経験を積んでいないので不安はあるが直ぐに職員と連絡をとれるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 最近夜間に火災が発生した設定で、火災避難訓練をしている。地域との協力体制については、取り決めをしているわけではないが、近所に住んでいる職員が2名いるのと、運営推進会の際に、入居者の知人の家族が近所に住んでいたりと、町内会長と民生委員の方々も家が近く、運営推進委員等において近くの施設・ご家族・地域包括に互いに協力依頼している。 (外部評価) 年2回夜間の火災を想定した避難訓練を実施しており、うち1回は消防署の協力を得て、専門的なアドバイスをもらっている。運営推進会議では、参加者と地域の災害対策の意見交換を行うなど、家族や近隣事業所、地域包括支援センター、地元企業等との協力体制を築いている。日頃から備蓄を考えた飲料水等の確保をしている。また、居室内の家具の転倒防止対策をしており、ハード面での改修や自主的な安全対策も行い、災害時に備えている。	事業所は河川にも近く、水害など様々な災害を想定したマニュアルの作成や、職員全員が利用者を安全に避難できる手順の確認などを行うことを期待したい。また、近隣住民等の地域協力者を増やし、一緒に避難訓練を行うなど実践的な取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇・言葉遣い（特に指示・命令口調・友達言葉等）は、その都度注意している。 (外部評価) 職員は利用者との慣れからくる言葉づかいや口調に気をつけた声かけ等をしている。特に入浴時や排泄時の支援には気を配り、利用者の羞恥心や誇りを損なわないよう支援しており、気になることは職員間で注意し合っている。利用者の安全面を優先し、転倒の危険性のある利用者の居室は、利用者や家族等に説明し同意を得て、ドアを開けた迅速な対応や見守りをする場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上できない事もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら、できる範囲で個人のペースや希望に添うように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同様にしている。買い物・散歩等外出時はもちろん特に、遠足や行事の時。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けに参加できる利用者や参加できる内容は限られてしまうが、働きかけは行っている。利用者さんと一緒に調理をし、得意料理を作って頂く機会も以前と比べ増えつつある。 (外部評価) 各ユニットに調理専門の職員が配置されており、利用者の希望を取り入れながら品数多く見た目にも楽しい調理をするよう努めている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、一家団欒のような会話をしながら和やかに同じ食事を食べている。利用者は食器の準備や片付け等を手伝っている。利用者個々の病気に配慮した食事や形態にする工夫している。また、利用者に食事の意見を聞いたり、外食を取り入れたりするなど、利用者が食に対して楽しみが持てるような工夫もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の栄養状態や、体重を考えて必要な人には食事量の制限や栄養補助食品の利用などを行い。摂取量についても、必要に応じ個別により細かいチェックをするようにして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が拒否する場合もあるが、利用者全員に口腔ケアを働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) チェックシート（排泄時間量・水分食事量等全部が把握できる）チェックを用い排泄パターンを把握する努力をし、すぐにリパツやおむつにするのではなく、しあわせパンツと尿取りパットを組み合わせる等、本人が気持ちよくトイレに行けるよう工夫している。	
			(外部評価) 排泄時間や量、水分や食事量等チェックシートに詳細に記録されており、利用者個々の排泄パターンをつかんでいる。訴え、表情、様子を見て、さりげなくトイレ誘導ができ、気持ち良い排泄へとつなげている。排泄関連の用品の勉強会を専門業者を招いて開催したり、外部研修への参加を通じ学習をしている。適切な用品の選択を検討したことで現在の状態維持や負担軽減につながる例があり、自立にむけた支援に努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。チェックシート把握し、飲み物の工夫、水分量の確保、必要に応じ便秘薬も使用し便秘が長期化しないように気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上時間帯については本人の希望どうりにはできていないが、時間内であれば、曜日や同性介助など希望を聞いて行っている。	
			(外部評価) 各ユニットに浴槽があり、利用者は週2～3回を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて入浴できるよう支援しており、同性介助などの対応もしている。利用者の高齢化に伴い介護度も高くなってきたため、2人体制での介助や福祉用具などの使用を工夫して安心安全に入浴できるよう支援している。また、職員間で入浴設備の見直しなどを話し合い、改修を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。寝具等天気の良い日には布団干し、または乾燥機を使用し順番に行い、清潔に保ち、整頓している。またフロアにはソファを置き寛げるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量等は薬局から出される説明文を個人のカルテに入れていて、必要に応じ確認できるようにしている。また、症状の変化にも気をつけ主治医との連携を取っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の過ごし方は、職員と共に、みんなが一緒に体操やちょっとしたゲーム、散歩、DVD鑑賞をしたり、個々でぬり絵、パズル、読書、等をして過ごして頂く。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ちょっとした近所への外出は去年よりも増えているが、その時になって急に言われるとできない事も多く、日を変えてもらうこともある。普段いけないような場所への外出は、まずは家族に協力をお願いし行うようにしている。 (外部評価) 日頃から利用者の希望を聞きながら、散歩や買い物等に気軽に出かけられるよう支援している。利用者に外出することが特別でないことを意識づけて支援している。日常会話の中で聞かれたホテルを見に行ったり、行きたいところに家族の協力を得て遠出したりするなど、気軽に外出できる機会をつくり利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所有している利用者は少ないが、希望がある場合は家族と相談の上、小額を本人に管理してもらっている。また外出時出来るだけ本人がお金を支払うように心掛けている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、メダカやベタを飼育し、エサやりをして頂いたり、裏庭の野菜作り、玄関の植物に水やりをして頂く。台所・食堂（リビング）がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。 (外部評価) 事業所は開設10年を迎えたが、清掃は行き届き清潔で丁寧な管理が行われている。特に感染症等の対策には気を配り、食事の前後にはテーブルなどの消毒を行うなど、気持ち良く生活できるよう配慮している。リビングには利用者で作成をした季節の飾りつけを行い、中心にキッチンや廊下が見渡すことができ、利用者は食事づくりの様子や香りを楽しむことができる。また、中庭があり野菜づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。裏庭にもベンチを置き外気に触れられるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に置けるものであれば、馴染みの物を持ち込んでかまわないようにしているので、自宅にあった仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。 (外部評価) 居室はベッドと整理ダンスが備え付けられている。居室には思い入れのあるものを持ち込めるよう利用者や家族に声をかけ、仏壇や生活用品等を持ち込み、利用者に合わせた空間づくりをしている。また、居室内の転倒防止対策をしたり、適切な温度管理をするなど、家族に協力してもらいながら利用者が居心地良く生活を送れるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの広さや廊下の幅は車イスも利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差も少なくし、トイレ・浴室・廊下に手すりを取り付けている。また、居室入り口等に名札を付けたり、カレンダーや時計を目に付きやすいところに設置し、確認しやすいようにしている。	